

研究機関名：東北大学

受付番号： 2014-1-852
研究課題名 膣断端再発子宮頸癌の標準的放射線治療の確立のための研究
研究期間 西暦 2013年10月（倫理委員会承認後）～2015年6月
対象材料 <input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名 _____） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名 _____） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ 診療録と診断画像 _____ ）
上記材料の採取期間 西暦 2000年1月～2010年12月
意義、目的 本研究の目的は、わが国において膣断端再発した根治手術後の子宮頸癌の放射線療法を行った症例の実態を把握することである。 子宮頸癌の多くは扁平上皮癌が主であり、膣断端再発癌は比較的放射線治療や化学療法が有効とされ、様々な治療法が行われている。しかしながら、大規模なランダム化比較試験がないためエビデンスレベルが低く、放射線療法あるいは放射線化学療法の意義については未だに確立してないのが現状であり、各施設の方針にバラツキを認める。 さらに、本邦の全国規模における放射線療法の実態調査の情報は少ない。従って、膣断端再発癌の放射線療法症例を多施設規模で集積することにより患者背景、治療背景、治療成績、有害事象を把握することができれば、今後の前向き試験や標準治療確立に向けての基礎データを作成することが可能となるため、その意義は極めて大きいと考える。
方法 参加施設で子宮頸癌術後膣断端再発に対し放射線治療を行った症例のうち、上記期間に治療を行った症例の診療記録から調査票に解答してもらい、そのデータを中央集計し解析する。 主調査項目は放射線治療開始日からの全生存率。副調査項目は照射野内制御率および副作用である。
問い合わせ・苦情等の窓口 東北大学大学院医学系研究科 放射線腫瘍学分野 教授 神宮啓一 TEL 022-717-7312